

Tintri と VMware vRealize Orchestrator によって 仮想マシンレベルでワークフローを自動化

VMware 環境においてカスタムワークフローの作成を簡素化するため、VMware vRealize Orchestrator が利用されています。この vRealize Orchestrator と連携する従来のストレージもありますが、実際には本質的な連携ができません。というのは、ワークフローの大半がアプリケーションとそれに関連付けられた仮想マシン (VM) をベースにしているにも関わらず、従来のストレージで自動化できるのはアレイレベルまたは LUN レベルの運用だからです。Tintri VMStore は、VM レベルで動作するように設計されているため、ストレージという観点ではなく、アプリケーションの観点で運用することが可能です。

Tintri vRealize Orchestrator プラグインは、vRealize と Tintri VM store を統合し運用を用意することができるよう、さまざまな VM レベルのワークフローが事前に定義されています。VM 単位でのスナップショット、災害復旧のためのレプリケーション、DevOps 環境のコピーデータ管理、VM 単位のサービス品質 (QoS) など、一般的なストレージタスクを自動化することができます。非常に多くの VM があっても全て VM 単位に、パフォーマンス・サービスレベルを保証することができます。これらのタスクは、クラウドインフラストラクチャオーケストレーションの一部として自動化できます。

Tintri vRealize Orchestrator プラグインは、適切な管理レベル (仮想マシン単位) で VMware vRealize Automation や vCloud Director などの上位管理レイヤと Tintri のストレージ運用を統合します。

Tintri vRealize Orchestrator プラグインの利点

VM レベルで自動化ワークフローの構築

Tintri vRealize Orchestrator プラグインは、VM 単位にストレージ運用のビルディングブロックを提供します。これによって、必要に応じて VMware ベースのプライベートクラウド環境においてワークフローを作成できます。

手動によるストレージ運用を排除

自動化により、エンタープライズ IT とサービスプロバイダーの両方の利用者が、以前は実現不可能だったサービスにアクセスできるようになります。手動による管理を排除することで、Tintri は、スナップショット、データ保護、レプリケーション、QoS、コピーデータ管理の待機時間を数時間または数日単位に短縮します。

VM レベルのパフォーマンスと QoS の保証

Tintri VMstore には、VM 単位にパフォーマンスを自動調整するパフォーマンス保証と動的なスケジュール設定がビルトインされています。個々の VM または VM グループに対して、それを必要とするワークロードに個別のポリシーまたはストレージ・ティアを構成できます。

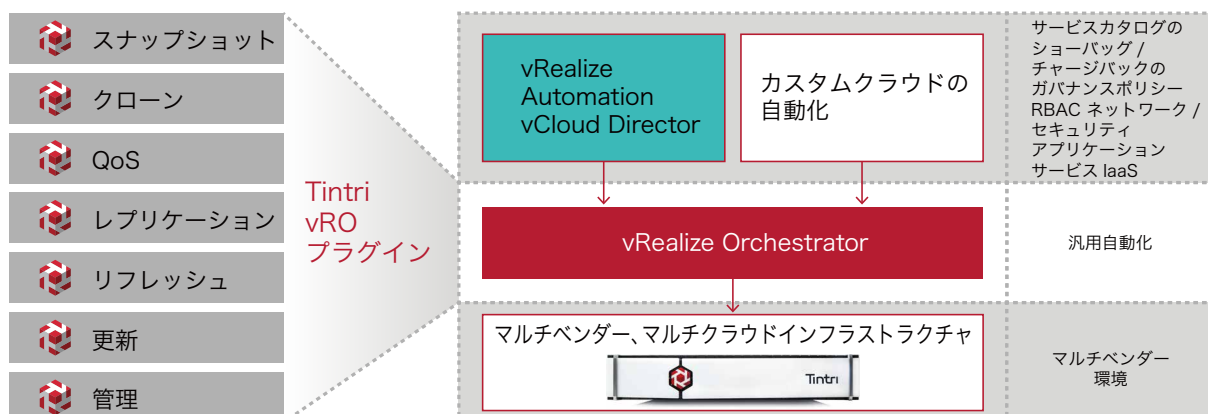


図 1 : Tintri vRealize Orchestrator のワークフロー

活用例

データセンターの自動化

今日のダイナミックなデータセンターでは、さまざまな仮想化アプリケーションを実行しています。従来のストレージでは、バックアップ、スナップショット、レプリケーションなどのタスクを手動で実行する必要があり、管理者の貴重な時間が取られています。

Tintri ストレージと Tintri vRealize Orchestrator プラグインをご利用いただくと、包括的なデータセンター管理とオーケストレーションの取り組みの一端として、ストレージのワークフローを VM レベルで簡単に自動化できます。

データ保護と災害復旧

Tintri プラグインによって提供されるスナップショット機能は、セルフサービスポータルからエンドユーザーに公開できます。アプリケーション開発者がアプリケーションを公開する前にスナップショットを取得したり、Windows サーバーエンジニアがパッチを適用する前に数百台のサーバーのスナップショットを取得することができます。

VM 単位の保護スケジュールを作成することにより、従来ストレージの限定された機能にとらわれることなく、アプリケーションを個々のニーズに基づいて保護できます。15 分という短い目標復旧時点 (RPO) を設定してアプリケーションを保護でき、最大 128 個ものスナップショットを利用して、データを長期間に保護することもできます。

DevOps

Tintri SyncVM は DevOps 環境において、データのリフレッシュを数分で実行することができます。DevOps は、vRealize Orchestrator 内から SyncVM および QoS ワークフローを活用して、ソフトウェア機能の継続的な統合、リリース、導入を早めることができます。

クラウドサービスプロバイダー

vRealize Orchestrator によって、クラウドサービスプロバイダーは保証されたパフォーマンスの SLA や課金メニューを提供することができるため、顧客は予算とパフォーマンスニーズに基づいて必要な階層型サービスを選択できます。

優れたストレージ自動化のための簡素化されたワークフロー

Tintri vRealize Orchestrator プラグインは、他のストレージでは実現できない VM 単位のストレージ運用に基づくストレージ自動化を可能にし、vRealize と Tintri ストレージを統合し容易な運用を実現します。vRealize では、QoS、レプリケーション、クローン作成、データ保護、コピーデータ管理のための事前に定義されたさまざまなワークフローがネイティブに提供されているため、ストレージ管理ではなく、アプリケーションワークフローの開発に集中することができます。